

人間発達総合演習 I

1. 担当教員

- ・ 名前: 宮崎 正美(みやざき まさみ)

2. 授業の目的

(1) 授業の目的

文献研究と調査結果による考察を客観的に評価し、研究成果としてまとめる。

(2) 到達目標

- ① 独自の研究テーマを設定し、先行研究に基づいて自分の研究を客観的に評価できる
- ② 様々な異論を交えて討論し、論点について評価・判断することができる
- ③ 結論をまとめ、ゼミ論文として執筆する

(3) ディプロマポリシーとの関連

人間学部のディプロマポリシー「(1) 本学の教育の理念であるキリスト教の精神に基づいた人間の理解や援助に関する専門的知識と 社会の変化に積極的な対応ができる能力として判断力・思考力・実践力」を身につけることを念頭におきながら、「(2) 共通科目の多角的学際的な学び」の基礎課程を形成する。そのための題材として「自然・人間・社会等について幅広い知識を探究する能力と専攻分野にとらわれない広い視野」(同)が必要とされる人間の現実そのものについて「現代社会の多様な問題」(同)を通して考察する。

3. 授業の概要

文献を読みこなしゼミ生同士の討論を通して研究成果のまとめ方を学ぶ。その具体的な形としてゼミ論文の作成にあたる。

研究テーマは、キリスト教に関連したものの中から、科目担当者と相談のうえで決定する。

4. 授業計画と予習・復習の内容及び必要な時間

回	テーマ・内容	予習・復習	備考
1	オリエンテーション(1)授業の進め方		
2	オリエンテーション(2)授業の進め方		
3	文献の紹介, 図書館での論文検索方法について		
4	論文の読み方について		
5	共通の研究論文 1		担当者による発表
6	共通の研究論文 2		//
7	共通の研究論文 3		//
8	共通の研究論文 4		//
9	共通の研究論文 5		//
10	各自による発表と討論 1		担当者による発表
11	各自による発表と討論 2		//
12	各自による発表と討論 3		//
13	各自による発表と討論 4		//

シラバス(公開版)

14	各自による発表と討論5	//
15	まとめ	
16	研究テーマの設定(目的と仮説の検討)	
17	研究計画の立案1(調査用紙の作成)	
18	研究計画の立案2	
19	研究計画の立案3	
20	調査の実施	
21	結果の分析1	
22	結果の分析2	
23	結果の分析3	
24	ゼミ論の執筆1	
25	ゼミ論の執筆2	
26	ゼミ論の執筆3	
27	ゼミ論の執筆4	
28	ゼミ論の執筆5	
29	ゼミ論の執筆6	
30	ゼミ論要旨の作成	ゼミ論文提出

予習・復習

(1) 予習の仕方

事前に提供された資料は読んでおくこと。そのため、意味の分からない用語があれば必ず調べておくこと。発表担当の場合には、予め発表の準備をよくしておくこと。

(2) 復習の仕方

自分の発表やテーマに関して指摘された点については、必ずメモをとり、研究ノートを更新しておくこと。

目安の時間として、授業1コマにつき、予習90分、復習90分が必要。

※ 授業の展開によっては、変更の可能性があります。変更の場合には随時お知らせします。

5. 評価方法(テスト、レポート、課題等へのフィードバックの方法も含む)

- (1) 発表(45%)…事前の準備の出来具合、質疑に対する応答等の点をもとに評価する。
- (2) 受講態度(10%)…1回の遅刻、欠席でも減点の対象とし、受講態度を総合的に評価する。
ただし、欠席数が多い場合には評価対象とせず単位を与えないことがある。
- (3) レポート・提出物(45%)…課題の理解度、考察の姿勢を総合的に評価する。
- (4) ただし上記の割合は、授業開始後の状況により変更の場合があり、目安として考えてもらう。

6. 履修上の注意

- (1) 「キリスト教学」が履修済みであることが望ましい。
- (2) 随時プリントを配布する。
- (3) 特別な配慮を要する学生は、必ず科目担当者と連絡をとっておくこと。
- (4) 特別な配慮を要する学生は、必ず科目担当者と連絡をとっておくこと。